

# 令和4年度第2回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事録

- 1 開催日時 令和5年2月27日(月)午後2時～午後3時25分
- 2 開催場所 リモート会議(建設緑政局 局会議室)
- 3 出席者(敬称略)

委員長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
副委員長	水庭 千鶴子	東京農業大学教授
委員	寺尾 祐一	NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	櫛原 賢二	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官
- 4 議事
  - (1) 令和4年度【多摩川は今】について
  - (2) 多摩川プランの今後のあり方の検討について
  - (3) その他
- 5 配布資料  
次第  
資料1-1 令和4年度川崎市新多摩川プラン実施事業報告書(案)  
資料1-2 多摩川丸子橋河川敷のにぎわい創出に向けた新たな利活用について  
資料1-3 その他参考写真  
資料2-1 多摩川プランと関連計画の時系列  
資料2-2 多摩川プランに基づくこれまでの取組
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人の数 なし
- 8 発言の内容 次のとおり(要約方式)

—開会—

- 【事務局】 (事務連絡・会議の成立に関する説明)  
【緑政部長】 (挨拶)

【吉富委員長】 (傍聴人確認)

<議事(1) 令和4年度【多摩川は今】について>

【事務局】 (資料に基づき説明)

【堀委員】 多摩川緊急治水対策プロジェクトについて。「令和4年度は水衝部対策を推進するとともに」と書いてあるが、専門家でないと「水衝部」の意味が理解できないのではと思う。例えば、「流れが堤防に当たる部分(水衝部)」とかいったような補足を入れおくと分かりやすい。

また、「治水の強化、防災性の向上」の部分に1行で良いので、各区ごとにハザードマップが出ているので参照してほしい旨を書き足すと良い。

もう1点、「また、防災意識の」という部分は上の段落とダブりのパラグラフになっているので、ここを削除して何か代わりになるようなものが入れば良い。

さらに「水たまキッズ事業」に関して、それぞれの回でおよそ何人ぐらいの子どもたちが参加したのか記入すると良いのではと思う。

【事務局】 ご指摘を踏まえ対応する。「水たまキッズ事業」は7名が参加した。

【江原委員】 毎年気になっているところで、『多摩川は今』に取り上げたような取り組みはどのような形で市民に周知しているのか。予算的な配分から冊子を色々なイベントで配布するのは難しいと以前聞いていたが、「市民のためにこういった活動または問題解決をしている」ということをどういった形で広報し、また市民の声はどうやって吸収しているのか聞きたい。

【事務局】 冊子は区役所の冊子コーナーに配架しており、川崎市ホームページでも掲載している。今年度は年度末にかけ、残部がどのくらいあるのか、実際にどのくらい配られているか把握する予定。また、ホームページの閲覧数の把握は難しいところはあるが、実際どのくらい見ているのかなどを検討し、一人でも多くの市民に見てもらおう工夫は必要だと考えている。

【吉富委員長】 前回も同様の意見をもらっていたと記憶している。具体的にどういう機会に何部配布したのか、またダウンロード数についても確認するということがあったが、今年度の広報の発信に関する進捗はどうか。

【事務局】 まだ成果が出ていないところもあるが、ホームページに載せているので、紙媒体ではなく電子媒体で発信していくことが重要かと思っている。

各種イベント等で例えばチラシを作る際に『多摩川は今』のホームページを見てもらえるような、そういった仕掛けなどを今後やっていきたいと考えている。配布数やダウンロード数については、まだ今年は確認出来ていないが、次年度以降そういった対応を考えていきたい。

【江原委員】 いずれにしても、こういった活動や事業報告を市民に幅広く浸透させる

ということが大事だと思う。行政として残す、報告書として残すということも大事だが、今この1年で変わっているところを市民に知ってもらうことがより重要だと思う。

【小野委員】 今の広報の話とも関係してくるが、今後の施策のアイデアとしての参考として。

「環境副読本の電子化を実施しました」と記載されていて、これはこれで素晴らしいことだと思う。その副読本のメニューの一つとして、例えば新多摩川プランの内容や『多摩川は今』の内容を反映したような、そういったコンテンツを今後用意してはどうか。今小学校だと、テーマを決めて、子どもたちにGIGA 端末を使って自分たちで調べさせ、自分たちでプレゼン資料にまとめるような授業もある。

多摩川をテーマに取り上げてもらうということも重要になってくるかと思う。こういった電子化のコンテンツというのを準備しておくことが、広報活動にもつながっていくのではないかと思う。

【事務局】 副読本を含めて、前回から教育部局との連携を強化していく必要があるとご意見をもらっている。副読本の内容についても引き続き教育部局と連携しながら検討していく。今年はこれ以外にも、河川財団と連携して副読本を端末で見られるような取り組みもしている。特に多摩川のメニューをしっかりと使ってもらえるように引き続き協議をしていきたいと思う。

【目黒委員】 目標に挙げたものが「どれくらいできたか」というのがもう少し分かりやすくなると良いのでは。現状だとやったことしか書いていないように見受けられる。確かに色々な取組を行っているのは理解はできるが、何ができていて、できていないかということが明確になると、できていないところにもっと力を入れていけるのではないか。真新しい取組かどうかというのを見せるために、いろいろと工夫をするべきだと思う。

【水庭委員】 様々な活動の一覧表が9ページ・10ページに出ている、目黒委員も話していたと思うが、よく見ていくと空欄になっていたり事業が終わっていたりとか、継続してるものと新規性のものとある。事業が100ある中で空欄があると目立ってしまうので、これは何を今度やっていくのか、終わった事業であれば次は何をやるのかとか、その取り組みがどうなっているのかが分かると思う。

【事務局】 空白の箇所は、事業終了となっているものが落ちた記載ミスであるので、訂正する。

また、「できていることしか書いていない」という点についてはもっともだと思う。資料の進捗状況をうまく活用して、「こういったところが課題」「これは継続している事業」と分かりやすく記載していきたいと思う。

<議事(2) 多摩川プランの今後のあり方の検討について>

【事務局】 (資料に基づき説明)

【寺尾委員】 完成した多摩川スカイブリッジについて、堤防からのアクセスができないと皆が言っている。今後アクセスできるように計画されるのか。

【事務局】 今回の段階ではご指摘の通り、堤防からスカイブリッジに直接入ることができない状態。

キングスカイフロントの最終事業者の工事がこれから予定されており、その事業者の工事の中でアクセスについての改善を協議する。堤防からスカイブリッジへ上れるよう、その実現に向けての調整が始まっている。

【榎原委員】 河川整備計画が平成 13 年に作られて平成 29 年に変更になっているが、今後の見通しについては令和元年の台風を受けて全体の方針が変更になる。その後河川整備計画を変更していき、来年度に整備計画の変更ということになってくると思われる。

【小野委員】 「生物多様性」というワードについて。

昨年 12 月、COP という場で 2030 年の国際目標というのが決められている。それを受けて今年の 3 月までに日本の生物多様性国家戦略が改定されるというスケジュールになっており、その後、改定された内容に合わせて地域戦略も改定するという施策が推奨されていると聞いている。

川崎市の地域戦略も現在発表されているかと思うが、改定があるのかないのか気になる。次の多摩川プランを考える上で、生物多様性の視点というのを施策に反映していくことが重要なのではないか。

なぜなら、気候変動に並ぶ問題として「生物多様性の喪失」というのが認識されていて、企業に対しても気候変動に加えて、生物多様性の「依存と影響の把握と開示」を知った上での対策が求められている。そのため、企業だけでなく、自治体もそういったアクションを今後考えていかなければいけないと思う。

【吉富委員長】 30by30 にも関係する重要な指摘である。特定のエリアを生物多様性の保全区域として認定を受ける OECM の観点からも考えることができると思う。川崎市としてこの多摩川をどう位置付けていくのか、生物多様性の観点から検討することはとても重要だと思う。

【事務局】 ご意見のとおりだと思う。緑の基本計画ではそういった部分を反映しているが、今の多摩川プランではそういう要素が少ないかと認識している。生物多様性の取り組みと連携した内容を多摩川においても示していく必要があると思っている。

【堀委員】 まず多摩川プランのところで、例えば『多摩川は今』の方にもあったが、「つながりを深めて魅力的な流域」という項目が立てられている。これはただ施設の説明とスカイブリッジができたという説明しかないが、もう少し先ほどの生物多様性の視点も含めた方がよい。流域環境（例：二ヶ領用水・生田緑地・等々力緑地）の部分が多摩川プランの中では希薄な感じがするので、もう少し詰めると、生物多様性の視点もおのずと入ってくるのではないか。

生物多様性というのは遺伝子、種、そして生態系、主に3つの多様性の視点から理解していくのが通常。特に多摩川流域で言えば、生態系を中心としてどうなっているかを重点的に多摩川とその流域で考えて詰めていくということが必要だと思っている。

そのためには流域にはいろんな大学や研究機関もあると思うので、研究者の協力も得てやっていくことが重要かと思う。以前、東急財団で助成金を出して多摩川流域の研究も進められてきたこともあり、ぜひ川崎市が音頭を取って先導して進めていくと良いのでは。

【事務局】 前回も多摩川流域の話をするときに、川崎市全体の自然環境や、資源を見せながら多摩川流域の話をしていくことが大事という意見を頂戴していた。そういった視点を次の計画には反映させていく必要があるかなと改めて認識した。今後、検討していく。

【江原委員】 第三京浜のところに橋が架かる件に関して、今後の進展や、人の流れと環境がどのように変わるのかという点が気になる。

また、河川整備計画の治水の観点において、多摩川河川敷の公園との関わり、多摩川の生態系に関わる部分を今後どのように捉えているか。

【事務局】 等々力大橋は東京都が中心となって現在整備を行っており、2025年に完成予定と聞いている。

【榎原委員】 整備計画について。

堤防について、無堤地区は解消するが、基本的には河床掘削で対応していくという話で聞いている。場所によっては、低水護岸の部分を広げる場合もある。

生態系の話については、流域治水の中にグリーンインフラという項目もある。生物多様性の観点だけではなく、グリーンインフラが保水などに役立つので、多面的な防災の面もあるということでグリーンインフラを位置付けている。緑地関係についても生態系だけではなくて、保水能力関係の期待もされるところ。

【江原委員】 橋に関してもう少し具体的に教えてほしい。25年度完成ということだが、車だけの流れなのか、あるいは歩行者・自転車を含めて、どのような目的で等々力大橋を造るのか。それに対して川崎市側の影響や、人・交通の流れ、公園の方にどういう人の流れが行くのか、川崎市側で把握しているのか。

【事務局】 今日のメンバーで把握している者はいない。当然、川崎市の関係部署でそういう調整をした上で、工期や計画等を進めているため、調査して改めて提示する。

【水庭委員】 何年後に何を目標しているとか、そういう短期・中期・長期のプランで考えるのかと思っている。実効性を高めるということも大切ではあるが、みんなが楽しめる空間であり、暮らしの安心安全のための場所でもあるので、そういった点をどのように具体化させるかが気になった。

【吉富委員長】 今後の夢のあるプランとして様々な観点はあがあるが、今日は主に生物多様性ということを中心にご意見を頂き、それがあって人々が楽しめるような環境が生まれていくこともイメージできたと思う。今日は、これまでの経緯や皆さんの意見を確認でき

たので、計画のことについては、今日の議論を踏まえて次回に改めてご発言いただきたい。

<議事(3) その他>

**【事務局】** 令和6年度の秋・春に「全国都市緑化かわさきフェア」を開催予定。川崎市としては初めての開催。

市制100周年の令和6年に合わせ、市の中でも「みどり」を大々的に取り上げてやっていく試み。「川崎市のみどり」には当然多摩川があり、まさに多摩川を全国に発信するいい機会だと思っている。引き続きこの緑化フェアに向けて、より多摩川を活用した魅力向上の取り組みを進めていくのでご承知おきいただきたい。

—閉会—